

# 地域公共交通の課題と展望

## ～JR連合地方議員とともに考える地域交通のあり方～

### VOL. 3 香川県（山本県議）

#### ■香川県における公共交通の実態

香川県は、高松市を県庁所在地に置く、東西南北を鉄道網が張り巡らされ、中心市街地には民鉄やバスなどが運行されている。交通分担率では、四国の中で最も公共交通の利用頻度が高く、鉄道をはじめとした公共交通が通勤通学の足となっている。しかし、香川県も生産年齢人口の減少や少子化の進行が進み、また道路整備が進み、企業や工場も郊外部に立地される傾向が近年急速化するなかで、公共交通の利用者数は年々減少の一途を辿っている。

#### ■公共交通の連携とJR四国の役割

5月21日、JR連合及びJR四国労組は山本香川県議会議員を訪問し、香川県における公共交通の実態についてヒアリング及び意見交換を行った。JR連合地方議員団会議に所属する山本県議は、この間、香川県の公共交通を活性化させるべく、様々な取り組みを展開、とりわけ様々な交通モードの連携を提起してきた。そうした活動の結果、一部交通事業者間での連携が進んだものの、利用者減少に歯止めがかかっていない状況が続いているとのことであった。



一方で、香川県下における都市間交通の軸を形成しているJR四国の役割は極めて重要であるものの、厳しい経営環境が故に脆弱な収益基盤となっている中で、いかにJR四国が安定経営を維持できるかという観点から、四国における新幹線計画の旗振り役として、香川県にその中心的役割を担うよう働きかけており、山本県議とのヒアリングとの中でそうした取り組みの一端を伺うことができた。

#### ■香川県交通政策担当者と意見交換

その後山本県議とともに香川県を訪問し、同県の交通政策担当者と意見交換を展開した。香川県からは現状の課題とともに、今後の地域公共交通ネットワーク策定に向けた方向性と考え方が示された。とりわけ、鉄道、バス等といった公共交通と、自動車による移動とのベストミックスを図り、交通結節点の機能を効果的・効率的に発揮させることからなるネ

ネットワーク構築のイメージが提起され、その中でJR四国に担ってもらいたい役割について、期待を含めた要望が出された。その一方で、県下市町村には交通に対する認識の温度差が存在しており、市町村が中心となった交通政策の策定には限界があること、さらには交通を所管する国土交通省が示す政策ビジョンが方向変更を繰り返す、その変更化市町村が十分対応し切れておらず、結果として県が対応の受け皿にならざるを得ない実態が問題提起も含めて報告された。



### ■国、県、市町村が一体となった交通政策の実現を！

今回は、はじめて県レベルにおける交通政策について意見交換を行うことができ、改めて基礎自治体である市町村と県との連携が、地方における交通政策の実現に極めて重要であることが把握できた。現在政府は、地方が主体となった交通施策の展開を謳っており、コンパクトシティとセットになった公共交通の再編という概念を取り入れているが、現場では居住箇所の集約といったコンパクトシティ構想は困難を極めており、結果として再編を伴う交通政策の展開は難しいという声も上がっている。JR連合はそうした現場の実態を十分受け止めつつ、チーム公共交通の形成に向け現場実態に即した政策立案を展開していく。